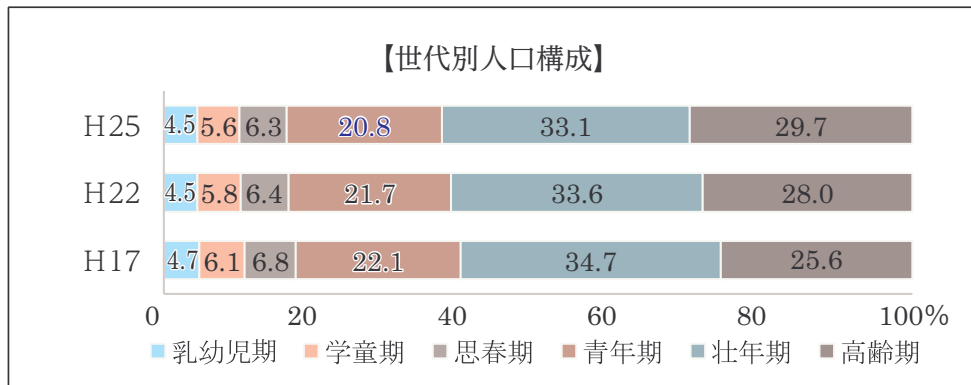


2. 下関市の現状

(1) 下関市の人口

人口構成

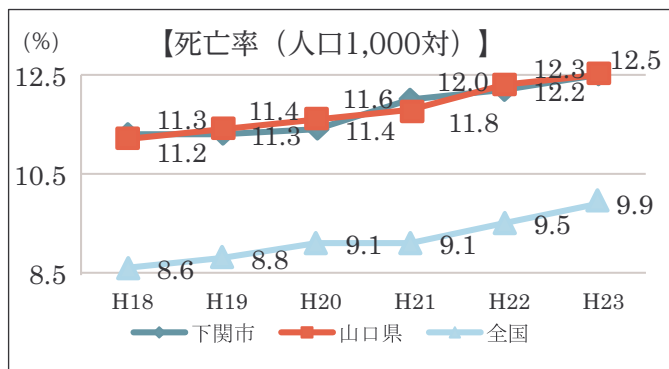
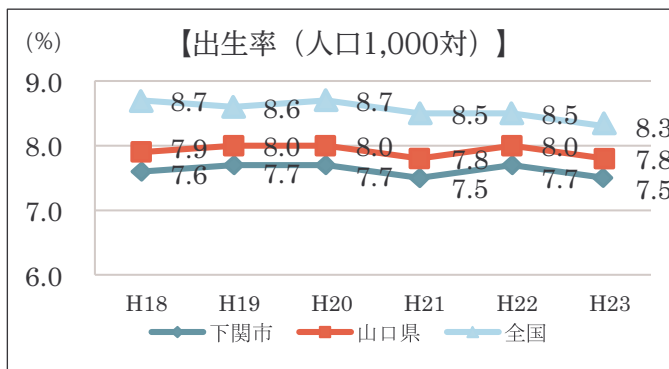


資料：下関市統計データ

(乳幼児期：0～5歳 学童期：6歳～12歳 思春期：13歳～19歳)
 (青年期：20歳～39歳 壮年期：40歳～64歳 高齢期：65歳以上)

下関市では、年々高齢化が進み、平成17年に比べ平成25年は、高齢期の人口比率は4.1%増加しています。また働き盛り世代である青年期・壮年期を合わせた人口比率は3.0%減少しています。

人口動態

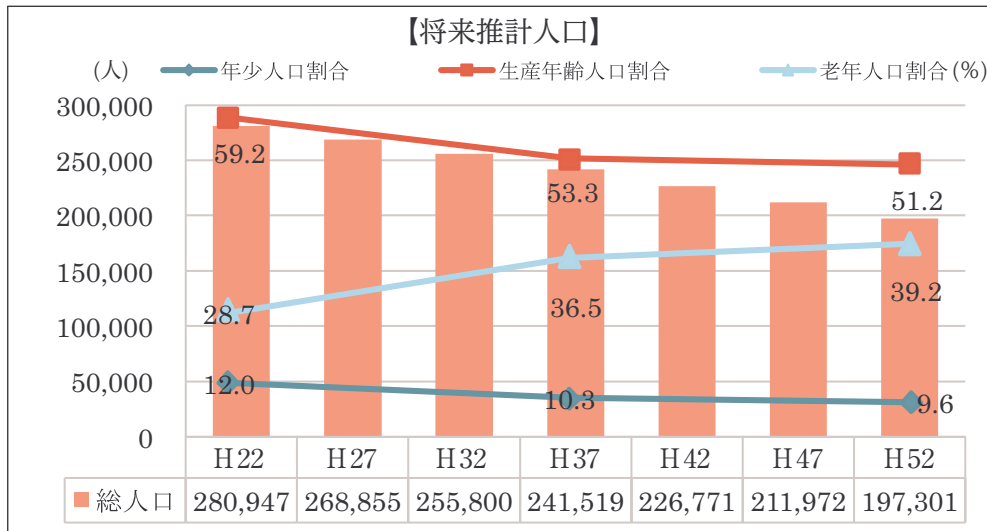


資料：山口県健康福祉部 保健衛生年報

下関市の出生率は、全国及び山口県よりも低い率で推移している一方、死亡率は全国よりも高く、山口県とほぼ同じ率で推移しています。



将来推計人口

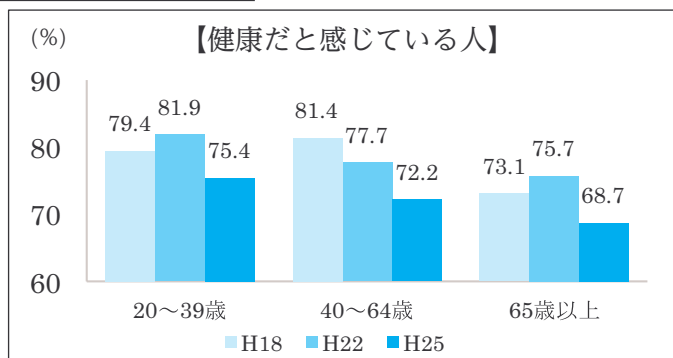


資料：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（H25.3月推計）
 [年少人口：14歳以下 生産年齢人口：15歳～64歳 老年人口：65歳以上]

下関市の将来推計人口は、平成22年から30年後には、総人口が約8万人減少に転じると推計されています。老年人口割合（高齢化率）は、平成52年には39.2%にまで上昇し、およそ2.5人に1人が65歳以上になると推計されています。

(2) 健康を取り巻く現状

健康状態の自己評価

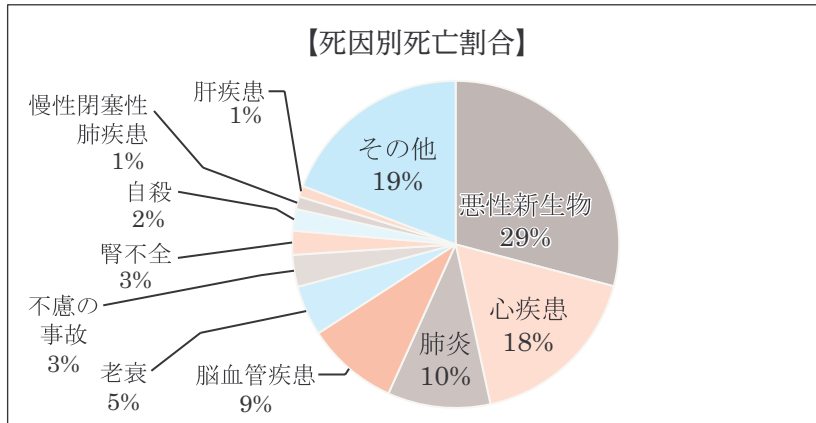


資料：「ふくふく健康21」生活習慣アンケート調査（H25）

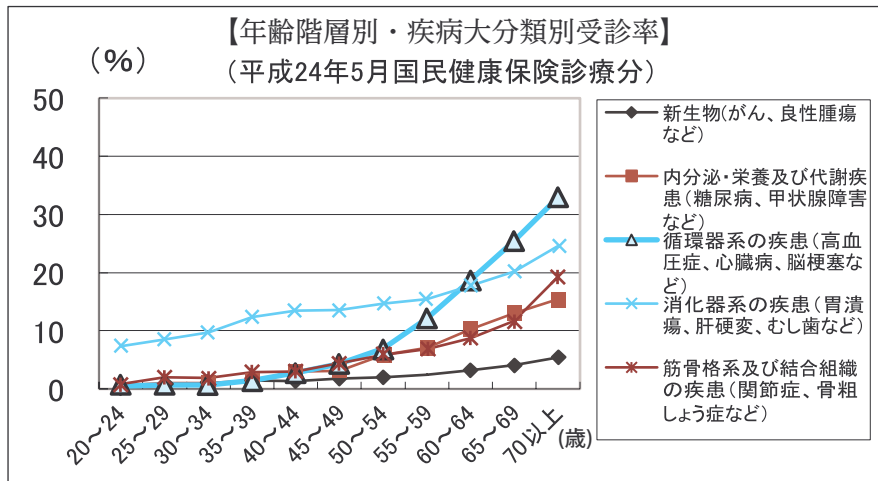
平成18年と比べ平成25年は、どの世代においても、「健康だと感じている人」の割合が減少しています。



死因別死亡割合及び疾病統計



資料：山口県健康福祉部 保健統計年報

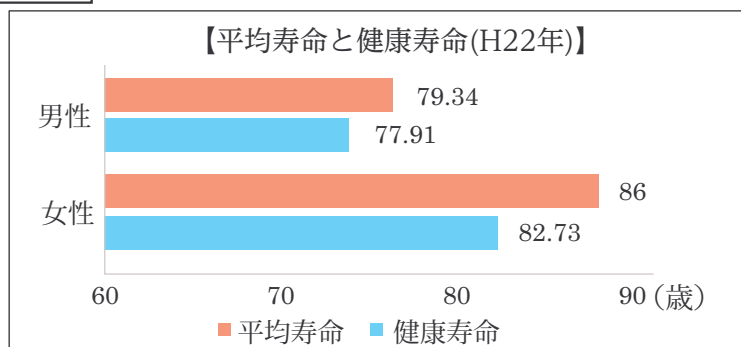


資料：山口県国民健康保険団体連合会

下関市の死因の割合は、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の3大生活習慣病が、死因の約6割を占めています。また、年齢階層別・疾病大分類別受診率では、年齢が高くなるにつれ、どの疾患も受診率が増加しています。中でも、3大死因につながる循環器系の疾患が50歳代を過ぎると急増しています。

早い段階で、自らの生活を振り返り、望ましい生活習慣を実践することが重要です。

健康寿命



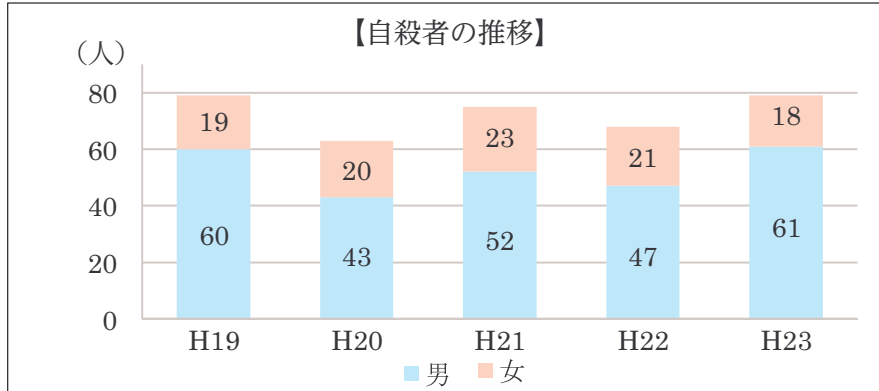
資料：H22年市区町村別生命表、山口県市町・年齢別推計人口(H22.10.1現在)、各市町の5歳階級別要介護2～5認定者数をもとに、厚生労働科学研究費補助金研究班が作成した「対象集団の生命表を用いた健康寿命の算定表」を用いて算定。

平成22年の平均寿命は、男性79.34歳、女性86.0歳となっており、健康寿命は、男性77.91歳、女性82.73歳となっています。

※健康寿命とは、健康日本21では「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。

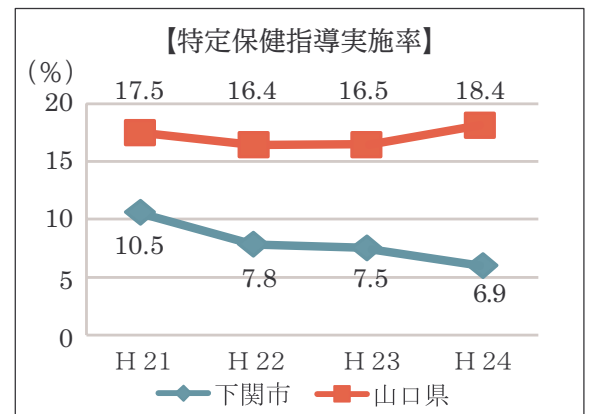
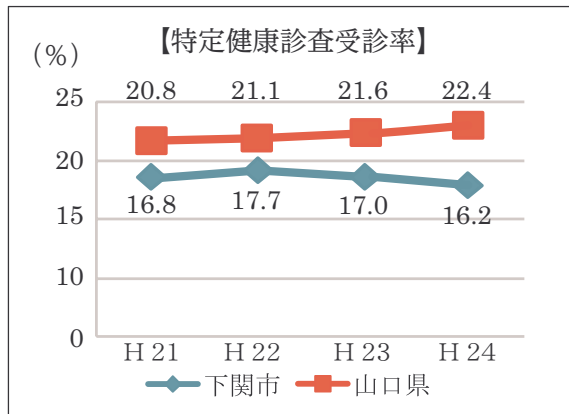


こころの健康



下関市の自殺者数は、ここ5年間はほぼ横ばい状態で推移しています。

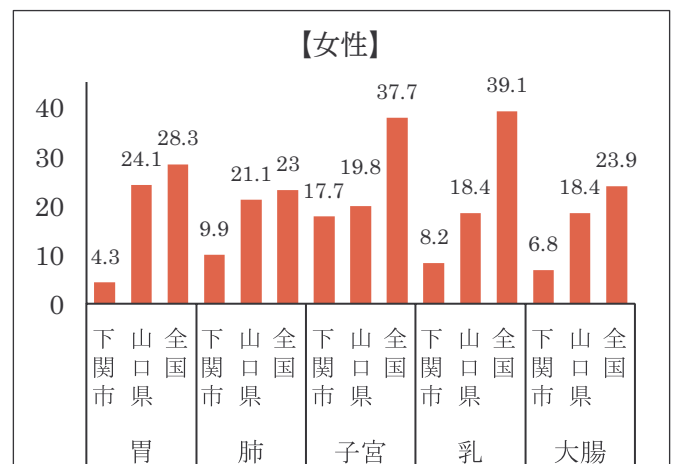
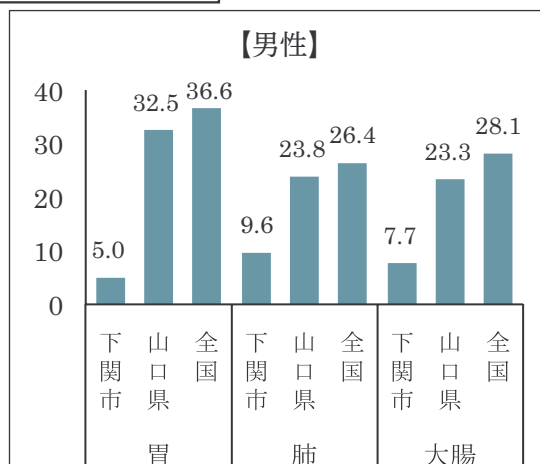
特定健康診査・特定保健指導



資料：第二期特定健康診査等実施計画

特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率ともに、山口県の平均よりも低くなっています。特に、特定保健指導実施率は年々低くなっています。自分の健康に関心を持ち、健診及び保健指導を受診し、生活習慣の振り返り・気づき・考え・実践につなげていくことが重要です。

がん検診受診状況



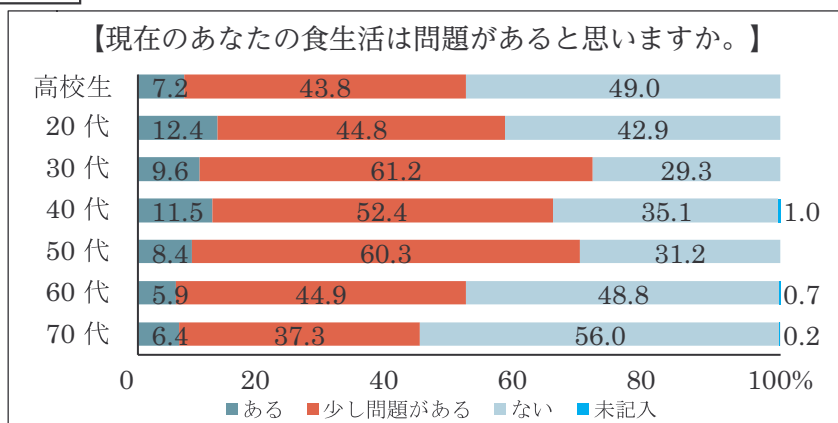
資料：平成22年度地域保健・健康増進事業報告（下関市）、平成22年度国民生活基礎調査（山口県・全国）

がん検診受診率は、すべてにおいて、国・山口県よりも低くなっています。がんは、早期発見、早期治療が可能となっていることから、がん検診を受診し、早期発見につなげることが重要です。



(3) 市民の生活習慣と健康意識

食生活

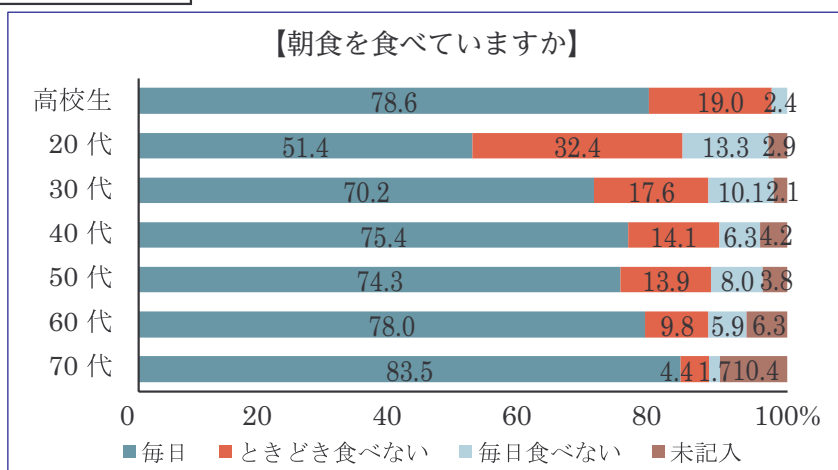


資料：「ふくふく健康21」生活習慣アンケート調査（H25）

高校生の約5割が食生活に「問題がない」と回答しています。

また、30代から50代では、食生活に「問題がある」「少し問題がある」と回答している割合が、他の世代に比べて多くなっています。

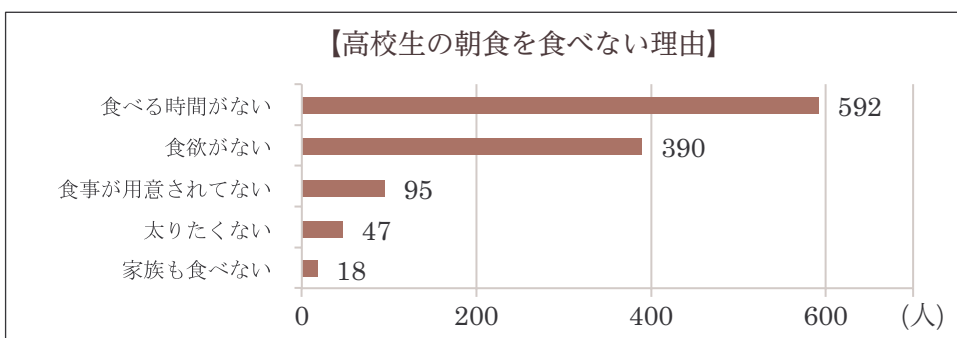
朝食の摂取状況



資料：「ふくふく健康21」生活習慣アンケート調査（H25）

※高校生：「ときどき食べない」については、「あまり食べない」と回答した人も含む。

高校生の約2割が朝食を「ときどき食べない」「毎日食べない」と回答しており、20代ではその割合が約5割で、高校生の2倍近く増加しています。また、20代から30代は、「毎日食べない」割合も他の世代に比べ多くなっています。



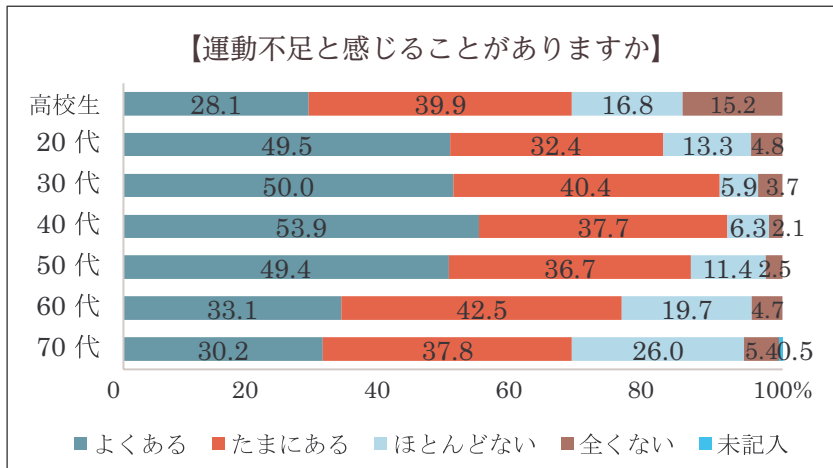
資料：「ふくふく健康21」生活習慣アンケート調査（H25）

(参考) 高校生の朝食を食べない理由

「食べる時間がない」「食欲がない」が多く、生活リズムが影響していることが伺えます。



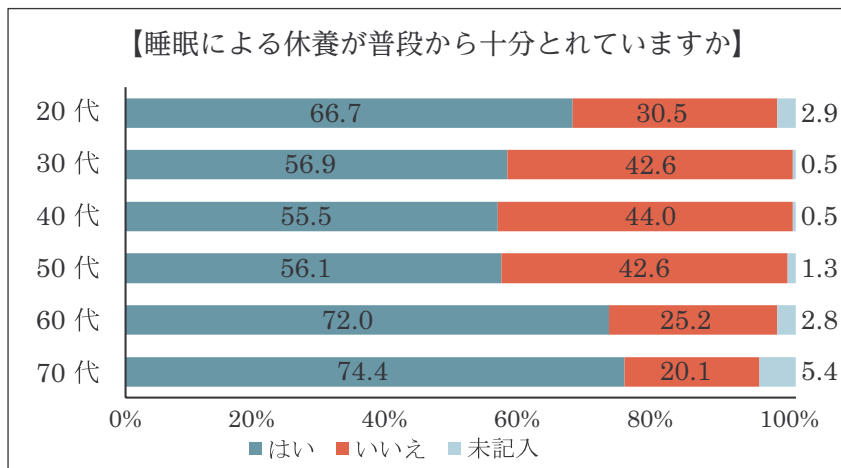
運動



資料：「ふくふく健康21」生活習慣アンケート調査（H25）

高校生の約7割が運動不足と感ることが「よくある」「たまにある」と回答しています。また、20代から50代で8割以上の方が運動不足と感ることが「よくある」「たまにある」と回答しています。

休養



資料：「ふくふく健康21」生活習慣アンケート調査（H25）

30代から50代の約4割が、睡眠による休養が普段から十分にとれていないと回答しています。

